会 議 録（要点筆記）

会　　議　　名	第７回　米原市子ども・子育て審議会
開　催　日　時	平成26年11月７日（金）　19時00分～21時15分
開　催　場　所	米原市役所山東庁舎　会議室２ＡＢ
出席者および欠席者	出席委員　：　８人 奥田援史会長、竹中礼子副会長、山本百合子委員、福永ひろみ委員 三原作之委員、伊藤理乃委員、谷口みゆき委員、木船満千子委員 欠席委員　：　７人 永田かおり委員、吉田兼次委員、須戸三重子委員、伊藤治夫委員、 髙橋淳一委員、赤尾真樹子委員、山田裕美委員 事務局　：　８人 岩山光一こども未来部長 子育て支援課：丸本光雄課長、口分田剛、池田昌司 保育幼稚園課：安食富美子課長、嶌真弓、川西譲 ㈱ぎょうせい：山野充寛
議　　題	(1)　教育・保育施設の利用者負担について (2)　米原市子ども・子育て支援事業計画（案）について
結　　論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	次回、以下の資料を基に、計画策定に向けた議論を進める。 ・米原市子ども・子育て支援事業計画案の検討

審　議　経　過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。）	１　開会あいさつ ［　奥田会長　］ ２　連絡事項 ・当日配布資料の確認 ・第６回（10/8）会議録の確認 ３　議題 （１）教育・保育施設の利用者負担について 会長 事務局から説明をお願いします 事務局から次の資料について説明 ・【資料１】子ども・子育て支援新制度開始に伴う教育・保育施設等の利用者負担（保育料）の考え方について 会長 ただ今の説明について何か御意見、御質問はございますか。 委員 今まで保育所は厚生労働省の所管、幼稚園は文部科学省の所管でしたが、新制度では内閣府の所管になることから幼稚園保育料も応能負担に変わり、利用者負担は保育所、幼稚園とも同じ考え方になったという認識でよろしいでしょうか。 事務局 資料の３ページにありますように、幼稚園就園奨励費補助の制度については、元から市町村民税による算定になっており、市立幼稚園などの対象園はこのような制度設計になっています。ですから元々は応能負担なのですが、それぞれの市町村の判断で定額制を採用していたものと推測できます。 会長 国の方針が認定こども園化に移行していきたい考え方から、全て応能負担に合わせていく方向であると思います。

	事務局 　現在は幼稚園と保育所で別々の料金表を使っていますので、認定こども園になると整合性を図らないといけませんので、料金体制も一本化して整合を図る必要があります。 会長 　４ページで、国は８階層ですが、米原市は 13 階層となっています。人数の一番多い階層はどの辺りの階層ですか。 事務局 　⑤の所得税額 103,000 円未満で、推定年収 640 万円までが一番多いです。 会長 　その階層の保育料は月額 44,500 円ですが、新制度になると金額はそのまま同じ額でスライドするのですか。 事務局 　基本はそうなりますが、保育料を試算して見てみますと若干所得税と市町村民税とでは変わってくる部分があります。特に年少扶養を抱えている人が多ければ多いほど保育料は上がる傾向があるように感じています。 会長 　一方、幼稚園で一番多い階層はどの辺りで、新制度になると保育料はどうなりますか。 事務局 　③、④階層の辺りで、月額 6,500 円の保育料ですが、人によっては倍ぐらいの保育料になる可能性はあります。 委員 　認定こども園になると保育園も幼稚園も同じ場所で生活しますので、第２子以降のお子さんが居られる保護者は、米原市は保育料が第２子以降は無料なので、少しでも長く預かってもらえる長時部に入れたいという保護者の声をよく聞きます。また幼稚園の保育料が上がれば、保育所や長時部への入園希望が集中するのではないかと思います。 委員

	幼稚園の保育時間と長時部の保育時間とでは差がありますが、時間単価に換算すると保育料の公平性は保たれていますか。 事務局 保育所の保育料は給食費と教材費が含まれており、幼稚園の保育料と単純には比較できませんので一概に言えません。 委員 私も子どもを幼稚園に入園させていますが、仕事もしているので保育料の話などを聞くと保育所入所を考えてしまい、幼稚園の保育料が倍くらいになると保護者は混乱します。経過措置とはどのような形を取られるのですか。 会長 幼稚園は今のまま一律では駄目なのですか。応能負担にするための説得ができる理由はあるのですか。 事務局 国の制度改正によるものです。 会長 保育料が上がれば、保育の質や成果に対して問われるようになります。経過措置と併せて十分な説明が必要だと思います。 委員 国の制度が女性の就労支援を進める考えがあるからだと思いますが、国の制度改革に併せて米原市も同じように応能負担にしなければならないのか少し考えさせられます。 委員 幼稚園の保育料がこれだけ上がれば、就労していない主婦が保育料を払うために、やむを得ず働かなくてはいけない状況になるのでは、そうなると幼稚園への入園をあきらめて、仲間同士で自主保育する人も出てくるのではないのかと思います。どちらかと言えば全体の保育料を下げてもらう方が、安心して仕事もできる選択肢が広がると思うので、納得のいかない制度だと感じました。

	会長 　本日は方針の説明をさせていただいたので、次回は具体的な数字で議論したいと思います。 　それでは２つ目の議題で「米原市子ども・子育て支援事業計画(案)について」の事務局の説明をお願します。 事務局から次の資料について説明 　・【資料２】米原市子ども・子育て支援事業計画（案） 会長 　本日は第４章と５章を中心に議論を進めます。まず 44 ページからの第４章で、特に 47 ページの保育のニーズ量と確保の人数でマイナス表示となっており、待機児童が出そうだということについて御意見、御質問があればお願いします。一応ニーズ量についての確保方策は５年間で確保できる計画となっていますが、それまでの間にマイナス表示をなくす計画にはできないものでしょうか。 委員 　数字上の話で、実際は待機児童は出ないだろうとの説明であったので、そのように理解しています。 会長 　個人的には 48 ページの説明をさらに丁寧に明記してほしいと思います。今回の計画の一番目玉となる部分ですので、待機児童が出たままの案を出すのも若干違和感があります。待機児童が発生する場合は小規模保育や家庭的保育で緊急的に対応するというのが新制度の考え方なので、そのような対応方法について明記がほしいと思います。 　次の地域子ども・子育て支援事業については、49 ページから 55 ページまで 11 事業が明記されており、ファミリー・サポート・センターや病後児保育、病児保育も新しく事業を展開されていくようです。１つ質問ですが 55 ページの放課後児童健全育成事業の確保方策の考え方について、2 段目の「年々、利用希望者数は増加傾向にあり、アンケート調査の結果と現状の利用者数を基に量を見込んでいます」とはどういう意味ですか。ニーズ量を基準に出す数値ではないのですか。 事務局 　ニーズ量で出てきた数字の結果は余りにも現状とかい離がありましたの

	で、低学年はニーズ調査の数値を用い、高学年は現状の数字と２倍近いかい離がありましたので現状の利用者数を基にした利用見込みとしました。 会長 　表で言うと平成 27 年度の数値で、低学年の 338 人はアンケートの結果から、高学年の 188 人は現状の実績からと理解してよろしいですか。 事務局 　アンケート結果と実績を考慮して算出し、高学年のみ補正しています。 会長 　アンケートは潜在的ニーズを調べているので、その数値を使用しないと意味がないのでは。 委員 　実際高学年の児童は利用が少ないのが現状で、アンケート調査は今までの調査から保護者が過大に回答される傾向があると分析しています。 事務局 　資料の 18 ページを御覧ください。就学前の子どもの保護者に対するアンケート結果で、「小学生になったときに放課後どのように過ごさせたいですか」という質問で、放課後児童クラブを利用したいという保護者が小学校低学年は 36 パーセント、高学年は 25 パーセントと高学年になれば利用希望が減る結果となっています。また 28 ページは、小学生児童の保護者に「どこで過ごしているか」という質問に対し、低学年で主として放課後児童クラブを挙げている方が 12 パーセント、高学年では 10 パーセントとなっています。この結果を見ると、高学年になれば自宅で過ごすや友達と遊ぶ児童が非常に増えてくることが分かります。就学前の子どものアンケート結果と小学生のアンケート結果を比べると、現状が見えてくるのでこれらの結果を基本として検討を加えながらニーズ量を算出しています。 会長 　このような考え方もありますが、アンケートを実施する意味がなくなってしまうので、アンケート結果の実数値と現状の実績数を明記して説明しないと読み取れないように思います。 　また、地域子ども・子育て支援事業についてですが、前回も指摘しましたが確保方策の考え方が余り明記されていないので、もう少し整理した方

	が良いように思います。「目指します」、「努めます」、「検討していきます」という表現ばかりなので、実際にこれを「実施します」というような文言を期待したいです。 　次に第５章について、それぞれの立場で気付かれたことなど御意見や御感想があればお願いします。 委員 　子育てに関して様々な支援をしていただいていて、特に不自由は感じていませんが、サービスが充実しすぎて保護者が子育てに関わらなくなってくるので、保護者に対する教育も必要だと思います。子ども会やＰＴＡなど保護者によって子どもの関わりに対する意識に差があるので意識を変える必要を感じています。 会長 　支援をすればするほど子育てから保護者を遠避けてしまうというジレンマが子育て支援にはあるように思います。子どもと一緒に学べるような場があったら良いという意見でしたが、その他いかがでしょうか。 委員 　子育て支援をすればするほど保護者から子育てや子どもを取り上げるというのは、ものすごく感じるところがあります。子どもに熱があったら休めるなど会社が理解してもらえる環境が理想ですが、小さな企業だと難しいと思います。「滋賀県一子育てしやすいまち」として子どもを育てるために米原市に転入してもらうためには、働く場がない限りそれは難しいと思います。また子どもの安全対策について、特に通学に関わって市民みんなで子どもの安全を守るという意識を市民の中に育てるような方策を立ててほしいと思います。 委員 　他市ではどのような支援をされているか分かりませんが、子どもの医療費の支援などは中学生までサポートしてもらえると安心して子育てできると思います。 委員 　米原市では様々な支援をされていてすごいと感じていますが、せっかく実施されていても知らないサービスもあるので、市民の皆さんにもっと宣伝・ＰＲをして参加、経験していただくことも大事だと思いました。逆に

	保護者自身も子育てを一段落したときに、親子で地域の清掃活動やボランティア活動など地域に貢献したりすることで、お互いに支援し合ったり・支え合ったりという絆が生まれるのではと感じています。私もボランティアで何か協力をさせてもらえる場があれば参加させてもらいたいと思います。 会長 　米原市の情報はスマートフォンなど端末で検索はできるのですか。 事務局 　フェイスブック、メール発信、ホームページなどがあります。 委員 　たくさんの取組があり、今後は自分の子どもたちが利用していくので、あって良かったと思える施策になれば良いと感じました。ファミリー・サポート・センターは、今までは祖父母、近所の人に助けていただいたことに代わる役割で、有り難いと思える取組になれば良いと思いました。社会で子ども達を守らなければならない時代になっているが、一方で子どもの声が騒音だなど、子どもは宝だと思ってきた時代が少しずつ変わってきて残念に感じます。いろいろな考え方の保護者がおられる中で、これらの事業がたくさんの方に良かったと思っていただければと思います。 会長 　第５章で感じたのは、これだけ取組が整備されて手厚く支援されていると正直びっくりしました。ファミリー・サポート・センター、病児・病後児保育は新規事業ですし、保育料や医療費の無料化なども実施されているので、重点項目などのように、もっと強く表現していっても良いのではないか。 次回はある程度、内容をまとめていくことが必要かと思いますので、この計画を熟読していただいて御意見をいただきたいと思います。以上で議事を終了いたします。これで議事進行を事務局にお返しします。 ４　その他 　［事務連絡］ ５　閉会あいさつ 　［竹中副会長］

	閉会　21 時 15 分

会議の公開・非公開の別	■公 開　　傍聴者：　0　人 □一部公開 □非 公 開 一部公開または非公開とした理由 （　　）
会議録の開示・非開示の別	■開 示 □一部開示（根拠法令等：　　） □非 開 示（根拠法令等：　　）
全部記録の有無	会議の全部記録　■有　□無 録音テープ記録　■有　□無
担　当　課	こども未来部　子育て支援課